

北海道師範塾 「教師の道」 塾頭通信

第744号 平成26年5月30日

SOS 「いのちの電話」

5月13日付の北海道新聞に、自殺を防ぐために24時間態勢で電話相談に応じている札幌市の社会福祉法人「北海道いのちの電話」が、相談員不足と財政難の二重苦に陥っている、という記事が載っています。

「北海道いのちの電話」は、1979年（昭和54年）に札幌に開設され、1983年（昭和58年）社会福祉法人として認可されています。

また、道内には札幌を拠点とする「北海道いのちの電話」と旭川を拠点とする「旭川いのちの電話」があり、合わせて400人の相談員が、年中無休、24時間態勢で電話相談に当たっています。また、昨年1年間に寄せられた相談件数は約38,000件だったそうですから、相談員は1人当たり100件近い相談を受けている事になります（「北海道いのちの電話」の広報資料から）。

さて、報道によると、本年度の相談員の応募は過去最少の14人ととどまると共に、活動を支える寄付金も減少し、昨年度は赤字となったとの事で、「北海道いのちの電話」では、「このままでは24時間態勢を維持できなくなる」と危機感を強めています。

何時でも相談出来る存在は、思い悩み自殺まで考えている人にとっては力強い事であり、自殺を防ぐ上でも極めて重要です。にもかかわらず、「北海道いのちの電話」が相談員や活動資金の確保の問題からその活動に支障が生ずるとするのは残念であり、看過できません。何故なら、自殺者は年間3万人を下回っているとはいえ依然として極めて深刻な状況にあるからです。

年間の自殺者数の推移

	H15	H20	H23	H24	H25
全国	34,427	32,249	30,651	27,858	27,283
道内	1,745	1,726	1,437	1,296	1,246

警察庁の資料により作成

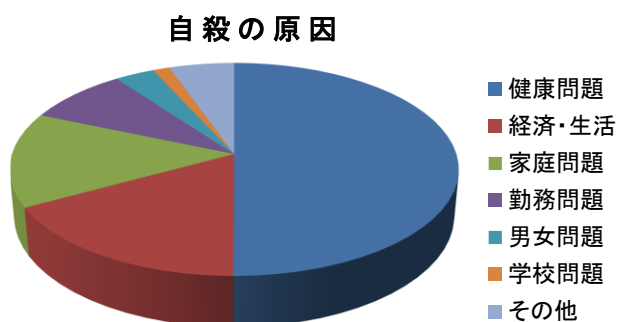
そこです、自殺者の推移について見ておきたいと思います。

左表からも分かるように、全国の平成25年中の自殺者は2万7283人（対前年575人の

減）となっており、2年連続で3万人を下回りましたが、しかし、高い水準にある事に変わりありません。この内北海道における自殺者は1246人（対前年50名の減）となっており、昨年より減少したとはいえ、毎年1千人を超える人達が自殺している事に愕然とします。

また、自殺に至った原因を見ると、左図のように、経済苦で生活に行き詰まって

死を選んだというケースも少なくありませんが、それ以上に健康問題の悩みが一番大きいようです。



【警察庁の資料から作成】

北海道警察の調べによると、健康問題の中でもうつ病が自殺の引き金になっているケースが非常に多いという実態にあり、周りの方々の目配りは、欠かせません。とはいっても、自殺しようとする人が発するサインにどれだけ敏感でいられるかとなると、正直私には自信はありません。自殺した方の遺族の多くも「振り返ればサインはあったと思うが、そのサインを自殺のサインとは思わなかった」と

いう人が少なくないのが実態です。

「自殺で亡くなった人の多くが生きようとしていた」と「北海道いのちの電話」は述べていますが、自殺を考えている人であっても、何かのきっかけがあれば自殺を思いとどまる可能性は常にあります。

自殺で亡くなった人の多く（男性で約6割、女性で約8割）は、亡くなる以前に医療機関や相談機関等どこかの機関に相談している事が分かっています（「北海道いのちの電話」広報資料から）。「北海道いのちの電話」への相談件数と自殺者の数を対比して見れば、相談の過程で自殺を思いとどまった人が少なくない事を窺わせます。

「北海道いのちの電話」では、「地道な活動だが、いのちの電話は自殺を思いとどまらせる最後のとりで。消費税増税など生活者の負担が増して暮らしが厳しくなっている今こそ、役目を果たさなくてはならない（5月13日付北海道新聞から）」と述べています。ようやく自殺者が減少傾向を見せている今こそ、彼等が安定した財政基盤の下で活動できるような支援の仕組みを作る事は、非常に重要だと思います。それと同時に、我々一人一人が、自殺者を一人でも少なくしようと取り組んでいる草の根の活動を、もっと良く理解する必要があると強く感じています。

（塾頭：吉田 洋一）